実践提案 1

# 一年生の授業開き 言葉を学ぶ楽しさを

## はじめに

初めての国語教室。子どもたちの心には希望がぎっしりつまっている。不安でしかたないけど、やっぱり希望でいっぱい。中学校には怖い先生がいるらしい。難しいことばかりでついていけるだろうか。

そんな思いで、ドキドキ、わくわくしている子どもたちに第一回目に伝えることは、「大丈夫ですよ。」という雰囲気。最初にビシッと決めるのも一つの方法だが、「怖さ」で言葉の力が付くことはめったにない。学びたくてたまらない、このときの子どもたちに必要なのは何より安心感。そして、明確な課題と達成感。小さなことでいい。一つ一つの明確な指示を出すこと。しかもその指示は挑戦したくなるもの。楽しい雰囲気は大事だが、心地よい緊張感と共にある楽しさが大事。希望に満ちた子どもたちの心に学びへの決意が生まれますように。

## 指導計画（全六時間）

**一時間目**
- ようこそ○○中学へ「国語教室心得」
- 声で味わう「朝のリレー」谷川俊太郎
- 学習の記録を書こう（ノートの書き方
※すべての時間で最後に行う）

**二時間目**
- 「言葉に出会うために」
- 「野原はうたう」詩の朗読発表会
- コメントの発表について（声を届ける）

**三時間目**
- 「書き留める」
学習の記録について（友達のノート）
- 自分のノートと友達のノート
（自己評価に挑戦）
- 言葉を調べる（辞書早引き大会①）

**四時間目**
- 辞書早引き大会②
- 「言葉の小劇場」についての説明
～言葉は使ってこそ

**五時間目**
- 学習記録の発表
- 自主学習について（「続けてみよう」）
- 「言葉の小劇場」～どの言葉に挑戦する？

**六時間目**
- 「言葉の小劇場」～友達の作品
- 作品発表
- コメントの発表
- 「シンシュン」予告
- 一時間目から六時間目を振り返る

## 指導の工夫・授業の実際

**一時間目**は授業開き。まず「国語教室心得」。中学校での心構えである。「心得」という言葉の意味を押さえてキリッとした口調で読む。みんなで読んでみるのもいい。

次に、「朝のリレー」の群読。簡単な台本を示しながらクラスで心を一つにして読ませる。

**【国語教室心得】**
▼一時間一時間の授業の大切さを自覚する。
▼どんな言葉にも鋭く反応できる人になる。
▼多くの情報を受け取り、「学び」の材料を見つける。
▼すぐに辞書を引く。
▼面倒くさいという心に克つ。（克己心）
▼読書すること、考えることに励む。
それも言葉の力になるのです。

**【朗読台本】**（冒頭部分）
**全員　きっぱり　男1　ゆっくり**
朝のリレー　谷川俊太郎
**女1（問）　さわやかに**
カムチャツカの若者が
**男1　はっきり　女1　夢を想像しながら**
きりんの夢を　見ているとき

「学習の記録を書こう」では、次のような指示を出す。

**【ノートの指導】**（ゆっくり、はっきり）
▼教科書18ページを開いてください。
▼指示通りに動いてください。一回しか言いません。一人でやってください。では、始めます。
▼ノートを開いてください。
▼定規を使って線を二本引きます。
▼一本目の線は日付の欄。引いてください。
▼二本目の線を引きます。どうぞ。
▼教科書と同じような線が二本引けましたか。
▼では、いちばん上の欄に今日の日付と曜日を書きます。どうぞ。
▼二段目の欄の一行目に「国語教室心得」と書いてください。
▼次の行に「朝のリレー」と書きます。

一回の指示でどのくらい動けるか、どの子がつまずいているか。失敗しても笑顔で対応。最後に今日の授業のまとめを書いて終了。ノート回収。

**二時間目**は、詩を選んで朗読を聞き合う。友達の朗読に対してコメントの練習。コメントには「間の取り方」「心情」「風景」「声の大きさ」「作者」「聞き手」「表現」など国語科ならではの語彙を使うよう指示。「声を届ける」のQRコードを読み取って視聴するのもよい。

**三時間目**は、他者の学びを知り、自分を振り返る観点を意識できるようにする。一時間目や二時間目の友達のノートを印刷して紹介し、自分のノートに対する自己評価の練習をするのも効果的である。「他者から学ぶ」ことのスタートである。

**四時間目**は、百字程度の「言葉の小劇場」の説明。言葉は使ってこそ力が付くということの意識化を図りたい。（詳細は『国語教育相談室』85号「生きた場面の中で言葉に出会う」参照）

**五時間目**は、「言葉の小劇場」に挑戦。「シンシュン」の中から言葉を抽出したものを提示。一つ選んで書いて提出させる。次に、これからずっと続けてほしい自主学習について。教科書20ページの「続けてみよう」に触れる。

**六時間目**は、友達の作品を読み合って楽しむ。「シンシュン」を読む力にもつながる。そしてこの六時間分の振り返り。中学校国語教室への決意を語る時間である。「声」「伝える」「読む」「記録」「言葉」「友達」「自己評価」などの言葉を使って発表させたい。



軽井沢
風越学園
甲斐利恵子（かいりえこ）